

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年3月4日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3890200516
事業所名 (ユニット名)	グループホーム はなみずき 1(A)
記入者(管理者) 氏名	山本良広
自己評価作成日	平成31年2月11日

<p>【事業所理念】「その人らしさを大切に、持てる力に寄り添います」・私たちは、その人らしさを大切に、これまでの・これからの持てる力に寄り添います。・地域の中で共に暮らし、居心地の良い場所・安心できる場所で家族や地域とのふれあいを大切にします。「いつも笑い声が聞こえる。いつも笑顔がこぼれている。」</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①認知症ケアの実践機関として、地域の相談支援の情報発信や啓発活動を図る。グループホーム職員全員が認知症サポーター養成講座を受講する。基本パート臨時職員も含め、職員全体に認知症を理解してもらい、更に認知症キャラバンメイト養成講座を開ける力量を持つ職員養成に努めたい。⇒伯方包括支援センターによる認知症サポーター養成講座を2月15日及び19日に開催、グループ全体で約90名が受講する。 ②運営推進会議への家族の参加が減少及び固定している。家族参加を増やすよう努める。家族の意向及び運営推進会議委員の出席可能な日時等を考慮し、参加者増を図りたい。⇒家族のご意見は、花見、遠足、月祭りへの参加でご意見をいただいて、それを運営推進会議に上げる方向で臨む方向で調整したい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 各居室はゆったりとして広く、個々にトイレ、洗面所があり、ゆとりがあるために利用者一人ひとりの個性を活かした空間が作れるようになっている。職員は利用者の話をゆっくりと丁寧に傾聴し、望んだ暮らしができるよう日々支援に努めている。記録はすべてパソコンで管理されており、職員がいつでも確認できるようになっている。事業所は積極的に看取り支援に取り組み、利用者や家族は安心している。運営推進会議で出された意見や提案を、職員間で話し合いサービス向上に活かしている。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	希望や意向が言える方は当然、言えない方の思いをはかる事に努めている。	◎	/	○	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向等を把握するよう努めている。意思疎通が困難な利用者の思いや意向等についても、表情等から汲み取っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	普段の行動や生活ぶりを観察するよう努めている。(過去のサービスの情報等聴取)	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	新しいことをする場合は家族に意向を聞くようしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	意見はケア記録に残すが、思いを整理・共有することは難しい。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ケアカンファレンス等で利用者さん本位で対応しているが、家族や職員の意向出る場合がある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族は勿論のこと。らしきシートや過去のサービスの情報等からの情報聴取している。	/	/	○	利用者の生活歴やこだわり、今まで大切にしてきたことなどは家族に「らしきシート」に記入してもらっており、職員全員で把握し共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	毎日の申し送りにより、状態を観察し注意事項など共有している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	同上	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りやDrやNSよりの伝達事項を掲載している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	ケア記録や申し送り表により、概ね把握できています。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	ケアカンファレンス(月例会)で検討しているが、時に職員や家族の視点などもあり、十分とは言えない。	/	/	△	利用者が何を求めているかの視点での検討が十分とは言えないため、今後は利用者本位のケアに取り組んで欲しい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	同上	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	十分できてない。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアカンファレンス(月例会)で検討している。	/	/	/	利用者に寄り添い支援する中で生まれる意見やアイデアを盛り込めるようカンファレンスで検討し、介護計画を作成するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	同上	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	NSの協力を得て、十分なケアが出来ている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	毎月のボランティアや音楽療法や地方祭への参加しているが、家族や地域の協力が希薄化が見受けられる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	定例会(月1回)でケアカンファレンスしている	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画は、パソコンで一括管理されており、職員は内容を常に確認することができる。定例会で介護計画に沿って実践できたかどうか状況を確認するなど、日々の支援につなげている。利用者の会話や表情等、暮らしの状況がわかるよう個別に記録している。利用者毎に職員の気づきやアイデア等を記録し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	同上	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	ケア記録に掲載している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	同上	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定例会(月1回)でケアカンファレンスしている	/	/	○	介護計画は3か月毎に見直している。状態に変化がない時でも、毎月のカンファレンスで利用者の状況を確認している。利用者の心身状態に変化が生じた場合は、家族や医師、看護師等関係者を交え見直すよう話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	同上	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	必要に応じNSやDrの意見も反映している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定例会(月1回)でケアカンファレンスしている	/	/	○	急を要するような緊急案件がある場合は、その場にいる職員が集まり迅速に対応している。内容によっては他の職員に知らせた上で意見や提案をまとめ、定例会で話し合うようにしている。参加できない職員には、会議録を回覧し共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	同上	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	夜間に開催し勤務表に記載している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	伝達事項に会議録を添付している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	伝達事項を利用している。	/	/	○	職員に情報を伝達する必要がある事項は、申し送りノート等を利用し職員全員が共有するよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り表を利用している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	レク等したいことを毎日訪ねているが、中々意見がでない。	/	/	/	飲み物を選択したり、テーブル拭きや食後の食器の片づけなどの手伝いを選んでもらったりしている。生け花など自分の得意分野を活かした役割を担ってもらうことも行っており、例えばできた生け花を褒めるなどして利用者の活き活きとした表情を引き出すなど工夫した支援に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	殆ど自分で買い物なども出来る人が、出来ない人もいる。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	いろいろなタイミングで、行ってみたい・やってみたいことなど問いかけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	極力、利用者さんの意向にあわせる支援をしている。時に職員の都合になる場合もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	いろんな場面で声掛けするように努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	いろいろな場面でのしぐさや言葉などサインに注意するようしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	その人なりの生活や習慣を大切に支援するようしている。	○	○	○	利用者は必ずさん付けで呼んだ上で敬語を使うようにしているほか、利用者と目線を合わせ見下ろすことがないように配慮するなど、常に利用者を尊重することを意識し支援している。時に大きな声を出してしまうこともあるため、今後はさりげない声かけの徹底に努めて欲しい。居室の出入りの際は、必ずノックや声かけをするよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	難聴の方が多いため、大きな声が出ることが多い。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	各居室での排泄誘導をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	当然ノックと声掛けし入室するようしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入所契約時に個人情報使用同意書ももらっている。職員は採用時に(退職後においても)個人情報保護の誓約書を交わしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物を一緒に畳んだり柿の渋抜きや干し柿など教えてもらっている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの性格等を把握しており、孤立しないよう様々な活動に参加する機会を提供したり、不穏になりそうな時は仲介するなど支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	職員みなしなみ街道の出身で家庭があり親も見てきており助け合いの必要性は自覚している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	入居者個々の気質や性格を見極めるよう努め、いろんな活動に参加して頂くよう場面に考慮して声掛けしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	利用者間のトラブルは、今のところ起きてないが不安がある場合はお話をしながら、その原因を把握し不安を取り除くよう努める。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	個人の生い立ちなどの各種情報をらしさシートとして、提出いただいている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	同上	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	出来ている人といない人がいる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	主に各室で過ごして頂くようしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	月に1~2回は特別の場合を除いて、ドライブや散歩に出るようにしている。	○	△	△	重度の利用者も含め全員が散歩しているが、機会があまりなく物足りなさを感じるので、外出の機会を増やし利用者の気分転換につながるよう努めて欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域行事への参加やボランティアによる誕生会には参加しているが、日常的な外出支援はない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	気象状況に考慮しながら、散歩などするようしている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	遠足や食事会など家族の参加を得ている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	看護師に相談しながらケア記録に残している。	/	/	/	レクリエーションや食事準備など、できることやできそうなことに取り組んでもらうよう努めているが、職員が行うことが多いと感じられるため、利用者が自主的に取り組める機会を増やし、職員は見守り中心の支援に努めて欲しい。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	こまめに声掛けしながら、出来ることはしてもらうため。直ぐに手を出せる位置で介助する。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	同上	○	/	△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個々の有する能力を見つけるよう努めている。	/	/	/	洗濯物をたたんだり、文化祭に生け花を出品したりしているが、一部の利用者に限られるため、利用者一人ひとりの可能性を引き出し、ふさわしい出番や役割が見つけられるよう努めて欲しい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	自己主張のない人はおいてきぼりにならないよう、声掛けしながら参加化を促すよう努めている。	○	○	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	春市や虫送や秋祭りに積極的に参加している。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎月第2月曜日に、希望者に理美容師がボランティアにて1回千円で好きな髪形にカットしてくれる。	/	/	/	服装やひげのチェックなど、整容の乱れがないか確認し、整える必要がある場合は、職員がさりげなく支援している。重度の利用者も定期的に散髪をし、家族に届けてもらった好みの服を着るなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	上記以外に町内のパーマ店等に希望により送迎する。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	意思表示が難しい方は、職員が家族に相談しながらしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	四季の衣替えは、ご家族にお願いしているが、職員も外出等の服装には声掛けしながら選んでもらうよう努めている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その都度、必要に応じて整容等している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望者は特別な事情がない限り、送迎する。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	意思表示が難しい方は、職員が家族に相談しながらしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	自分で食べようとしないうちなど、根気よく声掛けながら1時間くらい食事介助する。	/	/	/	食事の際は、利用者と職員と一緒に配膳している。梅干しや干し柿など、季節感のある食材を利用者と一緒に料理し、メニューとして提供している。食器は軽くて使い勝手のいいものを使用している。職員は利用者と一緒に食卓を囲み食事している。やさしく利用者に話しかけ和やかな雰囲気が出ている。重度の利用者にもさりげなく献立の話をするなど、食事の雰囲気を楽しんでもらっている。献立は管理栄養士が立てているが、利用者の栄養バランスについて、職員間で定期的に話す機会がないため、今後は積極的に話し合うよう取り組んで欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	主食はほぼ共同調理場で作っているため行ってない。柿とか梅等を収穫し、渋抜き・干し柿、梅干し作りに参加する。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	同上	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーなど把握は出来ている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	管理栄養士が食事量などケアマネ等と連携しながら管理する	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	手の不自由な方などのため、一口サイズにするなどしっかりしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	使い慣れたものを使用するよう努めている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食べる場合は少ないが、食べようとしないうちなど横について声掛けしたり、一口おにぎりにしたりしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	その方のペースで食べていただいている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取は記録として残している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	上記と併せて栄養補助食等の補給をしている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	管理栄養士による献立を使用している。	/	/	△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食事前にはキーパープロによる手指の消毒、共同調理場の食器洗浄乾燥機等による衛生を管理している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後の歯磨きや歯科衛生士による口腔ケアや食前の口腔体操を行なっている。	/	/	/	週2回歯科衛生士による虫歯の有無や義歯・舌の状態のチェックなど、口腔ケアに努めるほか、毎食後に利用者が歯磨きし、職員が磨き残しがないか口腔内の状況を確認し、清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	同上	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	同上	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎晩義歯の消毒をしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の歯磨きや歯科衛生士による口腔ケアや食前の口腔体操を行なっている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	不具合を発見した場合、歯科衛生士による口腔ケアを通じて、歯科医師の受診をしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	定期的なトイレ誘導に努め、極力おむつの使用は控えている。	/	/	/	パッド等の必要性について見直し等を含めて話し合い、利用者の状態に応じた支援に努めている。各居室にトイレが完備されており、職員は、利用者個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、安心して排泄できるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	牛乳やヨーグルト等の積極的な摂取に努め、便秘が3日続けば、NS及びDrに相談し洗腸を検討している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個々の排泄を記録し管理している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	定期的なトイレ誘導に努め、極力おむつの使用は控えている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	乳製品の飲用や排泄ケア管理表のチェックをしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	定期的なトイレ誘導に努め、極力おむつの使用は控えている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族がおむつやパッドを用意している方もある。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	吸収力の小さい物を日中に、大きい物を夜間に使用する。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品の飲用や排泄ケア管理表のチェックをしている。散歩や腹圧をかける等の工夫もしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	時間帯や回数、職員側の事情による。週3回で温度や長さは希望のままにしている。	◎	/	◎	週3回の入浴日で、利用者一人ひとりに合った湯温等要望に応じられるようにしているが、利用者から入浴日以外の希望があっても、入浴できるよう臨機応変な対応に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個浴で対応しており出来ている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることは自分でしていただくが、必ず手が出せる位置で見守る。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず、気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、時間をおいて再度声掛けする等している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェックを行い、入浴後水分補給も行う。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	定期巡回にてパターンを把握している。	/	/	/	日中はレクリエーションで体を動かしたり、夜間はホットミルクで体を温める等、眠りやすいよう工夫しており、安易に薬剤に頼った支援は行っていない。不眠が続きやむを得ない場合は、医師や看護師等に相談し薬剤を処方することもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転傾向の入居者さんに、日中のレクに参加を呼び掛けるが、参加が稀である。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	個々の状態をNS及びDrに相談しながら、支援している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	無理強くない、自由に居室で休んでおられる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望者には、家族に電話している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	希望者には、絵手紙など出している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯を使う人もおり、希望者には、家族に電話している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	便りが有れば、お礼の電話をしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	周辺症状等、落ち着かない場合等、電話に家族に電話して安心感を得るようにしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	買い物自分で出来る方はよいが、買い物出来ない方が多くなっている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	毎月2回の買物日を決めている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物は概ね2件の量販店やスーパーで買っている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族の同意のもと少額をお預かりして、事業所にて帳簿管理している。個人で所持している方もおられる。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	同上	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	同上	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族が県外や市外の場合高額介護等の行政事務の手伝いや通院移送などに取り組んでいます。	◎	/	○	県外在住の家族が多いため、病院受診や葬儀参列等の用事があれば、職員が付き添い同行するなど、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	普段の日中玄関は自動ドアで、誰でも入れる。	◎	○	○	玄関周辺は葉ぼたん等、季節に応じて花が植えられているため季節感が感じられ、来訪者は和やかな気持ちになり、気軽に入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	中庭や入居者と職員が作成した、飾り付けや樹木がある。	◎	○	○	利用者と一緒に作成したひな人形を飾るなど、家庭的な雰囲気が感じられる。清掃は毎日行っているため、気になる臭いもなく清潔感が感じられる。中庭には季節に応じ木々が芽吹くほか、リビングには鉢植えや観葉植物もあり、四季を感じさせてくれる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は屋内外問わず毎週1回している。トイレは毎日掃除している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	季節の移ろいが判るように生け花をしたり、中庭の楓や鉢植えの色つきも風情が感じられる。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	マッサージ機やラウンジでくつろぐ事ができる。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレや浴室は扉などにより直接見えない。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	長年使い慣れた、家具や仏壇などなじみの物を居室に持ち込んで、違和感なく過ごせるようにしている。	◎	/	○	居室には仏壇や家族の写真など大切なものが置かれ、テレビやこたつ等もあるなど、家庭的でゆっくり落ち着いた気分になれる、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	自分の部屋が判らなくなる人には居室前に写真等を貼る	/	/	/	建物内は広くゆったりしており、車いすやシルバーカーでもゆったり移動できる。居室ではベッドとソファの間を狭くし転倒予防に努めるほか、各居室にトイレと洗面台があるなど、自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	トイレが判らなくなる方には、便器の絵を描いてつるすなどしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	居室には、なじみの仏壇や家具等、多くの物を持参いただいている。新聞や雑誌もフロアーにあります。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	感染症対策期間と夜間以外は玄関に鍵はかけません。	◎	◎	○	職員は身体拘束委員会等により、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関は施錠されておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	徘徊の顕著な方には身体拘束にならないように中庭向きの部屋を利用するなどしている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	玄関前の廊下は他の事業所からも見え、大抵の徘徊者はここで発見される。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居者全員の病歴や服薬等について把握出来るようファイルにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日入居者全員の服薬や食事量やバイタルチェックをし記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	異常があれば看護師に伝え、バイタル等も毎日報告している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居者全員の病歴や服薬等について把握している。家族が希望すれば島外の病院も受診できる。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	看護師等から病状の説明をし本人及び家族の了解を得て受診する。了承が得れない場合は受診しない。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の必要性やその結果などその都度利用者さんの状態を家族に逐一報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	△	入院された方はいないが、グループ内では入院には必ず付き添い、情報提供する(予定)。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	同上であるが、地域連携室等と連絡を取りながら早期退院に向けて情報交換する(予定)。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	日常的に看護師による健康管理が行われ医師と連絡を密にしており、緊急時に迅速な対応が出来るようしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	グループ内より看護師の派遣を受け、医療連携加算を算定しており、日常的にパソコンによる健康管理等をしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	同上				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	同上				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	職員にはお薬ファイルを確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	毎日看護師による服薬配置確認が行われている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	異変がある場合には看護師に伝え、医師や薬剤師と協議することもある。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者さんのバイタルは勿論のこと排泄や皮膚の状態については、入浴時等に慎重に観察するようしている。				

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	利用者さん及びその家族には「重度化対応・終末期ケア対応指針」の同意を得てそれにより対応している。	/	/	/	重度化や終末期のあり方について、利用者や家族、職員、医師、看護師等とよく話し合い方針を共有しており、利用者や家族が安心できるよう努めている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	同上	○	/	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	開設年時に家族の強い要望により、事業所で初の看取りをさせていただきました。グループ内の看護師との協力連携で対応できました。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	同上	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看護師を中心にその時々の変化や食事・水分補給・排泄等の量を記録し、医師との連携を密にして対応しました。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	家族さんの強い希望により、看取りをさせていただいた、「大往生できありがとう」と言葉をいただいた。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	グループ内での講習等で定期的に講習している。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	発生した場合の初期対応品を各居室に用意している。止む無く通院した場合は、数日間居室対応をとります。ノロウイルス対策備品を各室付近に装備している。	/	/	/		/
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	昨年末のインフルエンザ警報発令から、面会外出制限をしている。	/	/	/		/
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	グループ内感染委員会による講習会への参加をしている。	/	/	/		/
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染予防のため出入りに消毒液とマスクを設置し、訪問時・退所時に使用をお願いしています。季報発令時は職員に注意喚起を行っています。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	毎月の利用料支払い時に近況をお伝えしている。遠足や月祭り等イベントのご案内や運営推進会議のご案内をしている。	/	/	/	家族には遠足等の行事に参加してもらえるよう案内し、参加してもらっている。利用者の様子がわかるよう便りを作成し、家族に送付するほか、電話やメールでも報告している。職員の異動や事業所の運営等の報告ができていないため、便りに掲載し家族に報告するよう努めて欲しい。面会時には、家族が相談しやすいよう声をかけるなど雰囲気づくりに努め、利用者の近況を伝えたり、家族からの要望等を把握したりするようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	居室やラウンジにてお話しできるようしている。希望者には宿泊も出来るようしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	月祭りや遠足や外出時のご案内は毎年しています。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月グループ内広報委員会において、各事業所において便りを作成し発行している。面会制限中はたよりを毎月送付しています。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	新しいことをする場合は、家族に必ずご意見をうかがって対応している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	施設での対応の現状を伝え、その様子をお知らせしています。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議において、ご家族の行事等について報告している。	○	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	グループ内の諸行事については、家族に参加のご案内をしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	看護師から個別にリスクについて、家族にその内容を説明しその対応策の方法を決めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	利用者さん同様声掛けや連絡をしており、積極的に行っていきたい。面会制限中は毎月のたよりを家族に郵送している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	事前に内容説明を行い契約している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去者は家族の希望する、特養入居者と看取りさせていただいた2名のみで納得いただいている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用料金改定は、その都度報告し改定している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	民生委員や自治会長や老人クラブ会長等のご理解により開設し、運営推進委員にも就任いただいている。	/	◎	/	職員は文化祭の準備等に職員が参加したり、宮や寺、自治会の行事等に利用者も一緒に参加したりするなど、地域住民との交流に積極的に取り組んでおり、事業所と地域とのつながりは深くなっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	お宮やお寺の行事に参加し、地域住民との交流は積極的に行っている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域に空き家が増えており、支援者は増えていない	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	利用者の友人や家族がよく来ていただく。月祭りは地域の主要なイベントとなっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近所の方とあまり声を掛け合う機会がない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	お抹茶会や誕生会などボランティアの方はよく来てくれる。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	お祭りやイベントには参加するが、全員の方が力を発揮しているとはいえない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域内の理美容店が毎月1回第2月曜日に希望者を1000円でカットをしてくれます。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ご家族全員にご案内していますが、固定化している。アンケート調査中です。	◎	/	△	家族参加者が固定化しているため、議題や日程調整を工夫するなど、家族の参加が増えるような取組みに期待したい。自己評価や外部評価、目標達成計画は運営推進会議で報告している。会議での自治会長の提案により、地域の防災訓練に参加できるようになるなど、緊急災害時の連携強化にも活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	自己評価や外部評価は、運営推進会議に全て報告しています。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	自治会長の提案で北浦地区自主防災組織の訓練に参加するようになった。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	次回開催日は会の終わりに皆で決めている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関窓口にて閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	取り組み出来ている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	フローアやパンフレットに記載しております。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内の各委員会の研修会には殆ど出席する。包括支援センターやGH協議会の研修会に計画的に参加している。	/	/	/	代表者は職員の都合に合わせて希望休を取れるよう配慮し、職員の慰安旅行の費用を全額法人が負担するなど、職員のストレス軽減に努めており、職員は働きやすい職場環境であると感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	法人内の各委員会の研修会には殆ど出席する。包括支援センターやGH協議会の研修会に計画的に参加している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境改善及び整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	今治地区グループホーム協議会に加入し2月に1回誰かが参加するようにしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	誰に対しても挨拶や声掛けができ、意見や悩み事も気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	スタッフ会議等で学習している。	/	/	/	不適切なケアに気づいた職員は、その場でアドバイスするなど、職員同士で徹底するほか、対応方法や手順等についても把握・共有し、適切なケアができるように努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月1回のスタッフ会議でカンファレンスしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	包括支援センターによる虐待に対する講習を開催しました。虐待は特に注意をしているが、対応方法は個別にする。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	日頃の声掛けや態度などから異変を感じた場合は、ケアに影響が出ないよう声掛けしながら見守る。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	すべての職員とは言えない。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	グループ内身体拘束委員会による毎月の会議録(事例)の報告をしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族が望むことが万が一拘束であった場合は、その旨伝え他に方法がないか相談する。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	すべての職員とは言えない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があればできる。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談があればできる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	対応体制は取っているが、マニュアルはできてない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	本年は消防署の講習に2名参加した。毎年受講するよう計画する。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	全て報告する(事故・ヒヤリハット)が多く、職員間での十分な検討はされてない。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	毎月1回のスタッフ会議でカンファレンスしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成しているが、苦情はいまのところない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情はいまのところない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情はいまのところない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	相談窓口は事務所に設けている			○	利用者からは、日々の生活の会話の中から聞き逃すことがないよう努めている。家族からは、運営推進会議や面会時に意見や要望を聞くよう努めている。管理者と職員は何でも相談できるほど関係が良好で、職員の意見等は把握しており、スタッフ会議等でよく話し合い、利用者本位の支援につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	運営推進会議でご意見や要望あるか尋ねている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	市や県等の相談窓口もお知らせしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	年に数回運営推進会議に参加している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	毎月1回のスタッフ会議を開催している。			○	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	全員で取り組んでいる	/	/	/	評価結果等は運営推進会議で報告しているが、家族等参加者に取組みのモニターを依頼するまでには至っていないため、参加者にモニターをしてもらい今後の運営に活かして欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題を明らかにし意識統一を図りたい。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	高望せず実行できる計画を立て取り組みたい。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	関連機関に報告しモニターいただきたい。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議に掲げた目標を確認いただきたい。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	グループ内で災害マニュアルを作成している。	/	/	/	地域の防災訓練に参加するなど連携も取れ、地域からも一定の評価が得られているが、家族は一部の人の理解を得られている程度であるため、緊急災害時における支援体制の理解が得られるよう、家族全員と話し合う機会を設けるなどの取組みが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルによる災害・火災訓練など毎年2回実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	同上	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	北浦地区自治会が組織する自主防災組織の訓練にグループで参加している。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	北浦地区自治会が組織する自主防災組織の訓練にグループで参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	グループ全体で約90名が認知症サポーター研修を受講しました。	/	/	/	事業所が相談できる場であることが、地域に伝わっていないため、事業所をPRし地域の相談ニーズの集約に努めて欲しい。地域包括支援センターの地域ケア会議に出席したり、秋祭りや文化祭に参加したりするなど地域との連携は図れているが、地域関係機関と連携したイベント等の実施には至っていないため、今後は積極的な取組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	電話での入所に関するご相談程度である。	/	○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	県社協でも調査され、希望があれば場所は提供する。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学高校生のワークショップ受け入れを毎年おこなっている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	伯方地域包括支援センター会議には、必ず出席している。	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年3月4日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3890200516
事業所名	グループホーム はなみずき
(ユニット名)	2(B)
記入者(管理者)	
氏名	山本良広
自己評価作成日	平成31年2月11日

<p>【事業所理念】「その人らしさを大切に、持てる力に寄り添います」・私たちは、その人らしさを大切に、これまでの・これからの持てる力に寄り添います。・地域の中で共に暮らし、居心地の良い場所・安心できる場所で家族や地域とのふれあいを大切にします。「いつも笑い声が聞こえる。いつも笑顔がこぼれている。」</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①認知症ケアの実践機関として、地域の相談支援の情報発信や啓発活動を図る。グループホーム職員全員が認知症サポーター養成講座を受講する。基本パート臨時職員も含め、職員全体に認知症を理解してもらい、更に認知症キャラバンメイト養成講座を開ける力量を持つ職員養成に努めたい。⇒伯方包括支援センターによる認知症サポーター養成講座を2月15日及び19日に開催、グループ全体で約90名が受講する。 ②運営推進会議への家族の参加が減少及び固定している。家族参加を増やすよう努める。家族の意向及び運営推進会議委員の出席可能な日時等を考慮し、参加者増を図りたい。⇒家族のご意見は、花見、遠足、月祭りへの参加でご意見をいただいて、それを運営推進会議に上げる方向で臨む方向で調整したい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 各居室はゆったりとして広く、個々にトイレ、洗面所があり、ゆとりがあるために利用者一人ひとりの個性を活かした空間が作れるようになっている。職員は利用者の話をゆっくりと丁寧に傾聴し、望んだ暮らしができるよう日々支援に努めている。記録はすべてパソコンで管理されており、職員がいつでも確認できるようになっている。事業所は積極的に看取り支援に取り組み、利用者や家族は安心している。運営推進会議で出された意見や提案を、職員間で話し合いサービス向上に活かしている。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	希望や意向が言える方は当然、言えない方の思いをはかる事に努めている。	◎	/	○	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向等を把握するよう努めている。意思疎通が困難な利用者の思いや意向等についても、表情等から汲み取っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	普段の行動や生活ぶりを観察するよう努めている。(過去のサービスの情報等聴取)	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	新しいことをする場合は家族に意向を聞くようしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	意見はケア記録に残すが、思いを整理・共有することは難しい。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ケアカンファレンス等で利用者さん本位で対応しているが、家族や職員の意向出る場合がある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族は勿論のこと。らしきシートや過去のサービスの情報等からの情報聴取している。	/	/	○	利用者の生活歴やこだわり、今まで大切にしてきたことなどは家族に「らしきシート」に記入してもらっており、職員全員で把握し共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	毎日の申し送りにより、状態を観察し注意事項など共有している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	同上	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りやDrやNSよりの伝達事項を掲載している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	ケア記録や申し送り表により、概ね把握できています。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	ケアカンファレンス(月例会)で検討しているが、時に職員や家族の視点などもあり、十分とは言えない。	/	/	△	利用者が何を求めているかの視点での検討が十分とは言えないため、今後は利用者本位のケアに取り組んで欲しい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	同上	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	十分できてない。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアカンファレンス(月例会)で検討している。	/	/	/	利用者に寄り添い支援する中で生まれる意見やアイデアを盛り込めるようカンファレンスで検討し、介護計画を作成するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	同上	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	NSの協力を得て、十分なケアが出来ている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	毎月のボランティアや音楽療法や地方祭への参加しているが、家族や地域の協力が希薄化が見受けられる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	定例会(月1回)でケアカンファレンスしている	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画は、パソコンで一括管理されており、職員は内容を常に確認することができる。定例会で介護計画に沿って実践できたかどうか状況を確認するなど、日々の支援につなげている。利用者の会話や表情等、暮らしの状況がわかるよう個別に記録している。利用者毎に職員の気づきやアイデア等を記録し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	同上	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	ケア記録に掲載している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	同上	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定例会(月1回)でケアカンファレンスしている	/	/	○	介護計画は3か月毎に見直している。状態に変化がない時でも、毎月のカンファレンスで利用者の状況を確認している。利用者の心身状態に変化が生じた場合は、家族や医師、看護師等関係者を交え見直すよう話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	同上	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	必要に応じNSやDrの意見も反映している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定例会(月1回)でケアカンファレンスしている	/	/	○	急を要するような緊急案件がある場合は、その場にいる職員が集まり迅速に対応している。内容によっては他の職員に知らせた上で意見や提案をまとめ、定例会で話し合うようにしている。参加できない職員には、会議録を回覧し共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	同上	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	夜間に開催し勤務表に記載している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	伝達事項に会議録を添付している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	伝達事項を利用している。	/	/	○	職員に情報を伝達する必要がある事項は、申し送りノート等を利用し職員全員が共有するよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り表を利用している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	レク等したいことを毎日訪ねているが、中々意見がでない。	/	/	/	飲み物を選択したり、テーブル拭きや食後の食器の片づけなどの手伝いを選んでもらったりしている。生け花など自分の得意分野を活かした役割を担ってもらうことも行っており、例えばできた生け花を褒めるなどして利用者の活き活きとした表情を引き出すなど工夫した支援に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	殆ど自分で買い物なども出来る人が、出来ない人もいる。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	いろいろなタイミングで、行ってみたい・やってみたいことなど問いかけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	極力、利用者さんの意向にあわせる支援をしている。時に職員の都合になる場合もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	いろんな場面で声掛けするように努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	いろいろな場面でのしぐさや言葉などサインに注意するようしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	その人なりの生活や習慣を大切に支援するようしている。	○	○	○	利用者は必ずさん付けで呼んだ上で敬語を使うようにしているほか、利用者と目線を合わせ見下ろすことがないように配慮するなど、常に利用者を尊重することを意識し支援している。時に大きな声を出してしまうこともあるため、今後はさりげない声かけの徹底に努めて欲しい。居室の出入りの際は、必ずノックや声かけをするよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	難聴の方が多いため、大きな声が出ることが多い。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	各居室での排泄誘導をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	当然ノックと声掛けし入室するようしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入所契約時に個人情報使用同意書ももらっている。職員は採用時に(退職後においても)個人情報保護の誓約書を交わしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物を一緒に畳んだり柿の渋抜きや干し柿など教えてもらっている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの性格等を把握しており、孤立しないよう様々な活動に参加する機会を提供したり、不穏になりそうな時は仲介するなど支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	職員みなしなみ街道の出身で家庭があり親も見てきており助け合いの必要性は自覚している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	入居者個々の気質や性格を見極めるよう努め、いろんな活動に参加して頂くよう場面に考慮して声掛けしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	利用者間のトラブルは、今のところ起きてないが不安がある場合はお話をしながら、その原因を把握し不安を取り除くよう努める。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	個人の生い立ちなどの各種情報をらしさシートとして、提出いただいている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	同上	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	出来ている人といない人がいる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	主に各室で過ごして頂くようしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	月に1~2回は特別の場合を除いて、ドライブや散歩に出るようにしている。	○	△	△	重度の利用者も含め全員が散歩しているが、機会があまりなく物足りなさを感じるので、外出の機会を増やし利用者の気分転換につながるよう努めて欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域行事への参加やボランティアによる誕生会には参加しているが、日常的な外出支援はない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	気象状況に考慮しながら、散歩などするようしている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	遠足や食事会など家族の参加を得ている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	看護師に相談しながらケア記録に残している。	/	/	/	レクリエーションや食事準備など、できることやできそうなことに取り組んでもらうよう努めているが、職員が行うことが多いと感じられるため、利用者が自主的に取り組める機会を増やし、職員は見守り中心の支援に努めて欲しい。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	こまめに声掛けしながら、出来ることはしてもらうため。直ぐに手を出せる位置で介助する。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	同上	○	/	△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個々の有する能力を見つけるよう努めている。	/	/	/	洗濯物をたたんだり、文化祭に生け花を出品したりしているが、一部の利用者に限られるため、利用者一人ひとりの可能性を引き出し、ふさわしい出番や役割が見つけられるよう努めて欲しい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	自己主張のない人はおいてきぼりにならないよう、声掛けしながら参加化を促すよう努めている。	○	○	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	春市や虫送や秋祭りに積極的に参加している。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎月第2月曜日に、希望者に理美容師がボランティアにて1回千円で好きな髪形にカットしてくれる。	/	/	/	服装やひげのチェックなど、整容の乱れがないか確認し、整える必要がある場合は、職員がさりげなく支援している。重度の利用者も定期的に散髪をし、家族に届けてもらった好みの服を着るなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	上記以外に町内のパーマ店等に希望により送迎する。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	意思表示が難しい方は、職員が家族に相談しながらしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	四季の衣替えは、ご家族にお願いしているが、職員も外出等の服装には声掛けしながら選んでもらうよう努めている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その都度、必要に応じて整容等している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望者は特別な事情がない限り、送迎する。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	意思表示が難しい方は、職員が家族に相談しながらしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	自分で食べようとしないうちなど、根気よく声掛けながら1時間くらい食事介助する。	/	/	/	食事の際は、利用者と職員と一緒に配膳している。梅干しや干し柿など、季節感のある食材を利用者と一緒に料理し、メニューとして提供している。食器は軽くて使い勝手のいいものを使用している。職員は利用者と一緒に食卓を囲み食事している。やさしく利用者に話しかけ和やかな雰囲気が出ている。重度の利用者にもさりげなく献立の話をするなど、食事の雰囲気を楽しんでもらっている。献立は管理栄養士が立てているが、利用者の栄養バランスについて、職員間で定期的に話す機会がないため、今後は積極的に話し合うよう取り組んで欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	主食はほぼ共同調理場で作っているため行ってない。柿とか梅等を収穫し、渋抜き・干し柿、梅干し作りに参加する。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	同上	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーなど把握は出来ている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	管理栄養士が食事量などケアマネ等と連携しながら管理する	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうに盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	手の不自由な方などのため、一口サイズにするなどしっかりしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	使い慣れたものを使用するよう努めている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食べる場合は少ないが、食べようとしないうちなど横について声掛けしたり、一口おにぎりにしたりしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	その方のペースで食べていただいている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取は記録として残している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	上記と併せて栄養補助食等の補給をしている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	管理栄養士による献立を使用している。	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食事前にはキーパープロによる手指の消毒、共同調理場の食器洗浄乾燥機等による衛生を管理している	/	/	/			

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後の歯磨きや歯科衛生士による口腔ケアや食前の口腔体操を行なっている。	/	/	/	週2回歯科衛生士による虫歯の有無や義歯・舌の状態のチェックなど、口腔ケアに努めるほか、毎食後に利用者が歯磨きし、職員が磨き残しがないか口腔内の状況を確認し、清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	同上	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	同上	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎晩義歯の消毒をしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の歯磨きや歯科衛生士による口腔ケアや食前の口腔体操を行なっている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	不具合を発見した場合、歯科衛生士による口腔ケアを通じて、歯科医師の受診をしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	定期的なトイレ誘導に努め、極力おむつの使用は控えている。	/	/	/	パッド等の必要性について見直し等を含めて話し合い、利用者の状態に応じた支援に努めている。各居室にトイレが完備されており、職員は、利用者個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、安心して排泄できるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	牛乳やヨーグルト等の積極的な摂取に努め、便秘が3日続けば、NS及びDrに相談し洗腸を検討している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個々の排泄を記録し管理している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	定期的なトイレ誘導に努め、極力おむつの使用は控えている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	乳製品の飲用や排泄ケア管理表のチェックをしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	定期的なトイレ誘導に努め、極力おむつの使用は控えている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族がおむつやパッドを用意している方もある。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	吸収力の小さい物を日中に、大きい物を夜間に使用する。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品の飲用や排泄ケア管理表のチェックをしている。散歩や腹圧をかける等の工夫もしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	時間帯や回数、職員側の事情による。週3回で温度や長さは希望のままにしている。	◎	/	◎	週3回の入浴日で、利用者一人ひとりに合った湯温等要望に応じられるようにしているが、利用者から入浴日以外の希望があっても、入浴できるよう臨機応変な対応に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個浴で対応しており出来ている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることは自分でしていただくが、必ず手が出せる位置で見守る。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず、気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、時間をおいて再度声掛けする等している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェックを行い、入浴後水分補給も行う。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	定期巡回にてパターンを把握している。	/	/	/	日中はレクリエーションで体を動かしたり、夜間はホットミルクで体を温める等、眠りやすい工夫しており、安易に薬剤に頼った支援は行っていない。不眠が続きやむを得ない場合は、医師や看護師等に相談し薬剤を処方することもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転傾向の入居者さんに、日中のレクに参加を呼び掛けるが、参加が稀である。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	個々の状態をNS及びDrに相談しながら、支援している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	無理強くない、自由に居室で休んでおられる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望者には、家族に電話している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	希望者には、絵手紙など出している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯を使う人もおり、希望者には、家族に電話している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	便りが有れば、お礼の電話をしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	周辺症状等、落ち着かない場合等、電話に家族に電話して安心感を得ようとしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	買い物自分で出来る方はよいが、買い物出来ない方が多くなっている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	毎月2回の買物日を決めている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物は概ね2件の量販店やスーパーで買っている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族の同意のもと少額をお預かりして、事業所にて帳簿管理している。個人で所持している方もおられる。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	同上	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	同上	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族が県外や市外の場合高額介護等の行政事務の手伝いや通院移送などに取り組んでいます。	◎	/	○	県外在住の家族が多いため、病院受診や葬儀参列等の用事があれば、職員が付き添い同行するなど、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	普段の日中玄関は自動ドアで、誰でも入れる。	◎	○	○	玄関周辺は葉ぼたん等、季節に応じて花が植えられているため季節感が感じられ、来訪者は和やかな気持ちになり、気軽に入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	中庭や入居者と職員が作成した、飾り付けや樹木がある。	◎	○	○	利用者と一緒に作成したひな人形を飾るなど、家庭的な雰囲気が感じられる。清掃は毎日行っているため、気になる臭いもなく清潔感が感じられる。中庭には季節に応じ木々が芽吹くほか、リビングには鉢植えや観葉植物もあり、四季を感じさせてくれる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は屋内外問わず毎週1回している。トイレは毎日掃除している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	季節の移ろいが判るように生け花をしたり、中庭の楓や鉢植えの色つきも風情が感じられる。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	マッサージ機やラウンジでくつろぐ事ができる。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレや浴室は扉などにより直接見えない。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	長年使い慣れた、家具や仏壇などなじみの物を居室に持ち込んで、違和感なく過ごせるようにしている。	◎	/	○	居室には仏壇や家族の写真など大切なものが置かれ、テレビやこたつ等もあるなど、家庭的でゆっくり落ち着いた気分になれる、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	自分の部屋が判らなくなる人には居室前に写真等を貼る	/	/	/	建物内は広くゆったりしており、車いすやシルバーカーでもゆったり移動できる。居室ではベッドとソファの間を狭くし転倒予防に努めるほか、各居室にトイレと洗面台があるなど、自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	トイレが判らなくなる方には、便器の絵を描いてつすなどしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	居室には、なじみの仏壇や家具等、多くの物を持参いただいている。新聞や雑誌もフロアーにあります。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	感染症対策期間と夜間以外は玄関に鍵はかけません。	◎	◎	○	職員は身体拘束委員会等により、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関は施錠されておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	徘徊の顕著な方には身体拘束にならないように中庭向きの部屋を利用するなどしている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	玄関前の廊下は他の事業所からも見え、大抵の徘徊者はここで発見される。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居者全員の病歴や服薬等について把握出来るようファイルにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日入居者全員の服薬や食事量やバイタルチェックをし記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	異常があれば看護師に伝え、バイタル等も毎日報告している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居者全員の病歴や服薬等について把握している。家族が希望すれば島外の病院も受診できる。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	看護師等から病状の説明をし本人及び家族の了解を得て受診する。了承が得れない場合は受診しない。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の必要性やその結果などその都度利用者さんの状態を家族に逐一報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	△	入院された方はいないが、グループ内では入院には必ず付き添い、情報提供する(予定)。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	同上であるが、地域連携室等と連絡を取りながら早期退院に向けて情報交換する(予定)。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	日常的に看護師による健康管理が行われ医師と連絡を密にしており、緊急時に迅速な対応が出来るようしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	グループ内より看護師の派遣を受け、医療連携加算を算定しており、日常的にパソコンによる健康管理等をしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	同上				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	同上				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	職員にはお薬ファイルを確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	毎日看護師による服薬配置確認が行われている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	異変がある場合には看護師に伝え、医師や薬剤師と協議することもある。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者さんのバイタルは勿論のこと排泄や皮膚の状態については、入浴時等に慎重に観察するようしている。				

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	利用者さん及びその家族には「重度化対応・終末期ケア対応指針」の同意を得てそれにより対応している。	/	/	/	重度化や終末期のあり方について、利用者や家族、職員、医師、看護師等とよく話し合い方針を共有しており、利用者や家族が安心できるよう努めている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	同上	○	/	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	開設年時に家族の強い要望により、事業所で初の看取りをさせていただきました。グループ内の看護師との協力連携で対応できました。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	同上	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看護師を中心にその時々の変化や食事・水分補給・排泄等の量を記録し、医師との連携を密にして対応しました。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	家族さんの強い希望により、看取りをさせていただいた、「大往生できありがとう」と言葉をいただいた。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	グループ内での講習等で定期的に講習している。	/	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	発生した場合の初期対応品を各居室に用意している。止む無く通院した場合は、数日間居室対応をとります。ノロウイルス対策備品を各室付近に装備した。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	昨年末のインフルエンザ警報発令から、面会外出制限をしている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	グループ内感染委員会による講習会への参加をしている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染予防のため出入りに消毒液とマスクを設置し、訪問時・退所時に使用をお願いしています。季報発令時は職員に注意喚起を行っています。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	毎月の利用料支払い時に近況をお伝えしている。遠足や月祭り等イベントのご案内や運営推進会議のご案内をしている。	/	/	/	家族には遠足等の行事に参加してもらえるよう案内し、参加してもらっている。利用者の様子がわかるよう便りを作成し、家族に送付するほか、電話やメールでも報告している。職員の異動や事業所の運営等の報告ができていないため、便りに掲載し家族に報告するよう努めて欲しい。面会時には、家族が相談しやすいよう声をかけるなど雰囲気づくりに努め、利用者の近況を伝えたり、家族からの要望等を把握したりするようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	居室やラウンジにてお話しできるようなしている。希望者には宿泊も出来るようしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	月祭りや遠足や外出時のご案内は毎年しています。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月グループ内広報委員会において、各事業所において便りを作成し発行している。面会制限中はたよりを毎月送付しています。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	新しいことをする場合は、家族に必ずご意見をうかがって対応している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	施設での対応の現状を伝え、その様子をお知らせしています。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議において、ご家族の行事等について報告している。	○	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	グループ内の諸行事については、家族に参加のご案内をしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	看護師から個別にリスクについて、家族にその内容を説明しその対応策の方法を決めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	利用者さん同様声掛けや連絡をしており、積極的に行っていきたい。面会制限中は毎月のたよりを家族に郵送している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	事前に内容説明を行い契約している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去者は家族の希望する、特養入居者と看取りさせていただいた2名のみで納得いただいている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用料金改定は、その都度報告し改定している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	民生委員や自治会長や老人クラブ会長等のご理解により開設し、運営推進委員にも就任いただいている。	/	◎	/	職員は文化祭の準備等に職員が参加したり、宮や寺、自治会の行事等に利用者も一緒に参加したりするなど、地域住民との交流に積極的に取り組んでおり、事業所と地域とのつながりは深くなっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	お宮やお寺の行事に参加し、地域住民との交流は積極的に行っている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域に空き家が増えており、支援者は増えていない	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	利用者の友人や家族がよく来ていただく。月祭りは地域の主要なイベントとなっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近所の方とあまり声を掛け合う機会がない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	お抹茶会や誕生会などボランティアの方はよく来てくれる。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	お祭りやイベントには参加するが、全員の方が力を発揮しているとはいえない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域内の理美容店が毎月1回第2月曜日に希望者を1000円でカットをしてくれます。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ご家族全員にご案内していますが、固定化している。アンケート調査中です。	◎	/	△	家族参加者が固定化しているため、議題や日程調整を工夫するなど、家族の参加が増えるような取組みに期待したい。自己評価や外部評価、目標達成計画は運営推進会議で報告している。会議での自治会長の提案により、地域の防災訓練に参加できるようになるなど、緊急災害時の連携強化にも活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	自己評価や外部評価は、運営推進会議に全て報告しています。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	自治会長の提案で北浦地区自主防災組織の訓練に参加するようになった。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	次回開催日は会の終わりに皆で決めている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関窓口にて閲覧できるようしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	取り組み出来ている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	フローやパンフレットに記載しております。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内の各委員会の研修会には殆ど出席する。包括支援センターやGH協議会の研修会に計画的に参加している。	/	/	/	代表者は職員の都合に合わせて希望休を取れるよう配慮し、職員の慰安旅行の費用を全額法人が負担するなど、職員のストレス軽減に努めており、職員は働きやすい職場環境であると感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	法人内の各委員会の研修会には殆ど出席する。包括支援センターやGH協議会の研修会に計画的に参加している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境改善及び整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	今治地区グループホーム協議会に加入し2月に1回誰かが参加するようにしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	誰に対しても挨拶や声掛けができ、意見や悩み事も気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	スタッフ会議等で学習している。	/	/	/	不適切なケアに気づいた職員は、その場でアドバイスするなど、職員同士で徹底するほか、対応方法や手順等についても把握・共有し、適切なケアができるように努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月1回のスタッフ会議でカンファレンスしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	包括支援センターによる虐待に対する講習を開催しました。虐待は特に注意をしているが、対応方法は個別にする。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	日頃の声掛けや態度などから異変を感じた場合は、ケアに影響が出ないよう声掛けしながら見守る。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	すべての職員とは言えない。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	グループ内身体拘束委員会による毎月の会議録(事例)の報告をしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族が望むことが万が一拘束であった場合は、その旨伝え他に方法がないか相談する。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	すべての職員とは言えない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があればできる。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談があればできる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	対応体制は取っているが、マニュアルはできてない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	本年は消防署の講習に2名参加した。毎年受講するよう計画する。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	全て報告する(事故・ヒヤリハット)が多く、職員間での十分な検討はされてない。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	毎月1回のスタッフ会議でカンファレンスしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成しているが、苦情はいまのところない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情はいまのところない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情はいまのところない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	相談窓口は事務所に設けている			○	利用者からは、日々の生活の会話の中から聞き逃すことがないよう努めている。家族からは、運営推進会議や面会時に意見や要望を聞くよう努めている。管理者と職員は何でも相談できるほど関係が良好で、職員の意見等は把握しており、スタッフ会議等でよく話し合い、利用者本位の支援につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	運営推進会議でご意見や要望あるか尋ねている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	市や県等の相談窓口もお知らせしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	年に数回運営推進会議に参加している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	毎月1回のスタッフ会議を開催している。			○	

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	全員で取り組んでいる	/	/	/	評価結果等は運営推進会議で報告しているが、家族等参加者に取組みのモニターを依頼するまでには至っていないため、参加者にモニターをしてもらい今後の運営に活かして欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題を明らかにし意識統一を図りたい。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	高望せず実行できる計画を立て取り組みたい。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	関連機関に報告しモニターいただきたい。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議に掲げた目標を確認いただきたい。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	グループ内で災害マニュアルを作成している。	/	/	/	地域の防災訓練に参加するなど連携も取れ、地域からも一定の評価が得られているが、家族は一部の人の理解を得られている程度であるため、緊急災害時における支援体制の理解が得られるよう、家族全員と話し合う機会を設けるなどの取組みが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルによる災害・火災訓練など毎年2回実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	同上	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	北浦地区自治会が組織する自主防災組織の訓練にグループで参加している。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	北浦地区自治会が組織する自主防災組織の訓練にグループで参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	グループ全体で約90名が認知症サポーター研修を受講しました。	/	/	/	事業所が相談できる場であることが、地域に伝わっていないため、事業所をPRし地域の相談ニーズの集約に努めて欲しい。地域包括支援センターの地域ケア会議に出席したり、秋祭りや文化祭に参加したりするなど地域との連携は図れているが、地域関係機関と連携したイベント等の実施には至っていないため、今後は積極的な取組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	電話での入所に関するご相談程度である。	/	○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	県社協でも調査され、希望があれば場所は提供する。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学高校生のワークショップ受け入れを毎年おこなっている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	伯方地域包括支援センター会議には、必ず出席している。	/	/	△	